

事業の背景・目的

生息環境の変化や外来種等の影響により、生息地、生息数が大きく減少している千葉県内のミヤコタナゴを保全するための事業を実施する。

令和3年度は千葉県由来のミヤコタナゴについて遺伝子解析を行い、系統保存体制の見直しと強化を図る。また、現地調査を通じてミヤコタナゴの生息状況の把握を行う。



事業の内容

事業ア 遺伝子解析事業

次世代シーケンサーを用いて、野生個体群、系統保存個体の遺伝的多様性及び系統解析を実施した。

事業イ 現地調査・モニタリング事業

県内生息地にて生物的環境（本種及び二枚貝類などの生息状況）、非生物的環境（土質、水質など）の調査を実施した。

事業ウ 繁殖体制整備事業

千葉県産系統の系統保存施設にて、ミヤコタナゴの人工繁殖体制の整備を実施した。

得られた成果

事業の成果

- ア. 遺伝子解析により、県内集団の系統関係及び遺伝構造が明らかになった。
- イ. 県内の生息地の状況について、把握することができた。
- ウ. 系統保存施設において、二枚貝類を使用しない人工繁殖による系統保存体制を整備することができた。

今後の展望

- ア. 遺伝子解析の結果を踏まえて、各系統保存施設での系統の整理及び系統保存体制の見直しを実施する。
- イ. 令和4年度以降も現地調査・モニタリングを継続して実施するとともに、今年度の結果を踏まえ、試験放流の実施に向けた検討を行う。